

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (28) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

本連載 No. 27 につづく No. 28 となるが、Trump 前米大統領の在任中の珍しいカジュアルで生の時事英語文に注目し、それを手早く見る方法をさらに考えていく。

Trump 氏が若い頃に第 40 代大統領 R. Reagan と握手している写真をネット上で見かけましたが、彼は Reagan ファンだったようである。彼の掲げた標語 Make America Great Again! も元々は Reagan 大統領が用いたものとも言われている。なお、Basic 語 **great** は元は「穀物」のことで、その「大きな受粉核は素晴らしいもの」であった。Basic 語の **grain** (穀物) は同系である〔拙著(2016)、松柏社、第二部、例(13)、(14)参照〕。

昨年 11 月の大統領選で、もしも本当に大々的な不正があり集計がずさんであったのなら民主主義の理念にも反するもので、得票数に関係なく勝者も敗者もない結果だったと言えることにもなる。More votes than people, and that is the least of it !!! (人の数より票の数が多い、さらにそれどころか!!!) などとも Trump 氏はツイッターに書き込みました。彼は Lamestream Media (マスゴミ) が勝者を決めたともした。

ともかく昨年は新型コロナウイルス禍で米国も経済活動(economic activities)に脅かされたが、ここで貧困をなくすため世界的にも再注目されたのが Basic English (BE) ならぬ **Basic Income** (ベーシックインカム: BI) の制度 (全国民を対象とした最低限生活保障) で、税金が増えるなど難点はあるとされるが、何かと議論されることともなった。これは一律給付金とする Universal Basic Income (UBI) とも言われるが、発想としては歴史的に古くから (18 世紀あたりから) あった国民の基本的生活保護のための構想で、最近では社会保障制度の発達しているフィンランドなど、いくつかの国ですでに実験はされてきている。日本では 1 人一律 ¥70,000 の支給などの案が出されてもいる。

冒頭で言ったように、Trump 前大統領の在任中の言説を後追いでその軌跡をたどるとともに、彼の用いた英語に注目している本連載であるが、今回は例を 1 つだけ扱う。

So now Congressman Adam Schiff announces, after having found zero Russian Collusion, that he is going to be looking at every aspect of my life, both **financial and** personal, even though there is no reason to be doing so. Never happened before! Unlimited Presidential **Harassment**. The Dems and their committees are going “nuts”. ... (February 7, 2019)

▲ [文末の破線は筆者 (長めの tweet であったので省略)]。ここでは一昨年 2 月、在任中の Trump 大統領が「大統領選 (1 期目) でアダム・シフ議員 (民主党下院議員) はロシア介入などはなかったことを知り、今度は私の金銭的な面 (父親からの遺産相続問題) と私生活面 (不倫問題) を調べると表明しているが、その理由・根拠がまったくないのだ。そんな事は決してなかったのだ! どこまでもつづく大統領への嫌がらせであり、民主党員と諜報委員会のメンバーは“気の狂った”連中だ」という内容である。確かに世の中には嫌がらせをする人物がいる。要注意である。

太線語 financial (財政上の) は音声的に [finænʃ(ə)l], [fainænʃ(ə)l] となる初頭音の [fi], [fai]

に注目するとよい。発音としては前者の[fi]を用いる人が多いが、financialのfinは「終わりのこと、制限(限定)のあること」を意味する。貨幣制度の下、これが金銭上の決算の意味合いをもつようにもなった。PIE etymonの音素形は定説までには至っていないが、やはり/FIN/とする文献もある。この推定音素形から多くのラテン系の語が派生した。

/FIN/からfinish(終える)、final(最後の)、finale(フィナーレ)、definition(定義)、confine(閉じ込める)、infinitive(不定詞)、refine(精錬する)、fine(素晴らしい・罰金)など、プラスα Basic語ではinfinity(無限大)が生まれた。

このうちinfinitive, refine, fineの3語を確認しておこう。infinitive(不定詞)は人称・数・時制・法などで語形が限定される定動詞(finite verb) [e.g., am, are, is, was, were]に対し、限定されない不定動詞[infinite (<in- = not) verb]の‘be’の形態となるわけであるし、refine(精錬する)とは徐々に純度を高め「最後に優れたものとする」わけ、これがfine(素晴らしい)こととなる。All’s well that ends well. (終わり良ければすべてよし)ということわざもあるが、物事は最後が大事(有終の美)ということになる。また、「罰金(fine)」は事の処理を「金を払って終わりとする」という意味をもっている。

太線のBasic語andはin(内部)と同系である。なお、butはout(外部)と同系。これは本連載(16)の(2)ですでに触れておいた。

太線語harassmentは動詞形harass [həræs]の音の響きを音感として感じ取るとよい。動物などをけしかける擬音語に由来するとされているが、はやし言葉のHurray! Hurray! (フレー! フレー!)の音[hərɛi]などとも似ている感じがする。また、deixis(直示)のBasic語hereもharassmentと同系であることをここで付け加えておこう。hereは語形からは{he- (= this) + re (= place)}である [cf. thereは{the- (= that) + re (= place)}、whereは{whe- (= what) + re (= place)}]。

文中のnuts(ばか者)のnutはBasic語で「木の実、堅果」であるが、堅い頭でもイメージすればよい。PIE etymonの音素形は/KNEU/とされ、プラスα Basic語nucleus(核・原子核)と同系である。to go nuts(気が狂う)はslang(俗語表現)としてかなり普及している。この場合のnutsは本連載(8)の②で見たcrazyとも置き換わる。

slangと言ったが、PIE etymonの音素形は/SLENK/とされ、末尾の/NK/から[n]となったsling(投石器・パチンコ)とも同系で、「俗語表現」のslangは投げやりでぞんざいな言葉により相手を払いのけるような語感をもつ。さらにこれらslang, slingは本連載(4)の①で扱った初頭子音[s]をもっている。「滑ること、滑らせること」を意味するBasic語slipなどともやはり根元ではつながっているだろう。un-Basic語ではsleigh(そり・そりに乗る)なども同系 [同上拙著、第二部、例(77)参照]。

付け加えておくと、上でslangを「俗語」ではなく「俗語表現」と言っておいた。間違えられがちであるが、slangは普通名詞ではない。(×) ‘Nuts’ is a slang. とは英語で言えない。(○) ‘Nuts’ is a slang word. が正しい。(×) a slang, (×) slangs とは言えない。

論旨を移すが、このtweetでの第1文は混文(mixed sentence)である。ここでは特に聴き取りの場合announcesとthatの語結合がポイントとなる。こういうtweet文の理解度を試すには通訳者養成機関などで試みられているやはり書写(transcription)により、正字法(orthography)・句読法(punctuation)の観点から確認する方法がある。段落文の書写では最初に普通のテンポでの読み上げ、次に意味単位(sense unit)ごとに区切った読み上げ、最後に再び普通のテンポによる読み上げで確認をする。したがって読み上げは基

本的には3回でよい。当然、教授者側の英語発音も確かなものであることが要求される。

ここでの固有名詞の Adam Schiff はあらかじめ板書しておく手もあるが、資料を読み込んでいる学習者であれば難なく spell out できるはずで徹底度を含めた評価法上、板書しない手もある。教授法では書写のあと、この種の通信文例であれば意味内容を翻訳式でなくても深層意味素 i) **ABOUT**, ii) **BECAUSE**, iii) **PLEASE** の3分類で整理し日本語で書くやり方もよい。transcription での結果の評価は、A⁺ (秀)・A (優)・B (良)・C (可)・F (不可) の5段階でよからう〔4段階評価なら A⁺も Aも共に A (優) でよい〕。

i) ~ iii)をもう一度 Basic など英語に焼き直す手もある。日本では英⇄日の変換作業と書き起こしは実用的であり重要なもので、テレビなどでの英語による即席 impromptu {im (= in) + promptu (= to be quick)} のインタビュー・会見などを書き起こして transcription し、日本語字幕スーパー付けに日常的に携わっているいわゆるプロの「英語職人」たちの存在は貴重である。会議通訳者などの存在もしかりである。

transcription の同系語(paronym)ではなく類義語(synonym)に dictation があるが、dictation は Basic 語 **condition** などと同系であるし、プラスα Basic 語 *index* (索引・指数) とも同系。また un-Basic 語では dictionary, indicate, dedicate, predicate, predict, deictic (直示の)、deixis (直示)、dictator (独裁者)、indictment (起訴) などが同系で、語彙解析として PIE etymon の形態言素形(morphoglosseme : MG) / 形態音素形(morphophoneme : MP)からは/DEIK/が復元されている。「指で差し示すこと、口で伝えること」が原義である。最後の indictment は[indáitmənt]の音となるが、[ái]には元来は二重母音/EI/であった PIE etymon の原音の痕跡を垣間見る。さらには語形の変異した digit (手足の指・数字の桁) もこの系統語である。

また、初頭子音[d] が[f], [t] ([d] → [f], [t]) となった Basic 語 **finger, teaching** も実は同系語である。数の five 「5」も同系で、finger の元の意味は「5のうちの1 (one of the five)」であった。[f]音となった un-Basic 語では5本の指の fist (げんこつ・握りこぶし)、figure (形・数字・比喩で言う・心に描く) など、[t]音では tutor (チューター・個人教師) など同系〔さらに多くの例は同上拙著、第二部、例(46)参照〕。

orthography の ortho- (= right)からは C.K. Ogden の Basic など言語心理学的なオルトロジー [orthology : science of the right use of words (純正語法)] の研究で知られる London の The Orthological Institute (純正科学研究所) の名称にもなった。

punctuation は、本連載(10)の(2)でも例に挙げた Basic 語 **POINT, PEN, PENCIL, PIN, PAIN, PUNISHMENT** とも同系で、「鋭く尖っていること」が原義である〔同上拙著、第二部、例(55)参照〕。